

時代	縄文(じょうもん)	弥生(やよい)	古墳(こふん)
西暦	二万年前頃 一万年前頃 八千年前頃	一〇〇年頃 二〇〇年頃 五〇年頃	三〇〇年頃 四〇〇年頃 五〇〇年頃
香川県のできごと	<p>各地で石器が使われ始める。</p> <p>県内各地で発見されている。</p> <p>「ミミ捨て場」として貝塚がでける。</p> <p>縄文土器が作られる。</p> <p>この頃、香川県に米づくりが伝わる。</p> <p>弥生土器が作られる。</p> <p>銅鐸や銅剣が作られる。</p>	<p>古墳とは、高く土を盛り上げた古代のお墓のことで、種類は円墳(丸型)、方墳(角型)、前方後円墳、双円墳、八角墳(八角形)、などいろいろある。</p> <p>内部は竪穴式石室と横穴式石室があり、時代により違いがわかる。</p> <p>古墳の種類と型</p> <p>高松市の石清尾山古墳群が造られる。多くの小石を積み上げた古墳もある。</p> <p>横穴式石室を持つ古墳が造られる。</p> <p>さぬき市にある、四国最大の富田茶臼山古墳が造られる。</p> <p>前方後円墳が造られ始める。</p>	<p>この時代に造られたものと思われる横穴式石室を持つ古墳が、ほぼ完全な形で東植田八幡神社に残っている。その他、城池の周りにも多くの横穴式古墳が残っている。また、三木町や新田町、西植田町、池田町にもたくさん古墳があることから、古墳を造る力を持った有力者が多く住んでいたことがわかる。</p> <p>竹元遺跡の発見</p> <p>昭和六十二年の夏、台風のため朝倉川に沿って土砂崩れがあり、川の周りでたくさん弥生式土器が発見された。その後、平成五年から竹元の消防団所の建築工事があった時に、この付近から弥生時代前期の竪穴住居跡や土杭、溝など多くの遺物が見つかり注目された。その結果高松市内でも古い時代に相当する貴重な遺跡であることがわかった。その出土品は、坂出市の香川県埋蔵文化財センターに保管されている。</p> <p>高様川や朝倉川に沿って、集落が広がっていたようで、その住居跡から弥生式土器が見つかっている。</p> <p>柚尾の天神山で石器が作られた跡があり、その破片が見つかっている。</p>
西暦			
東植田のできごと			

時代	飛鳥(あすか)	奈良(なら)	平安(へいあん)
西暦	五九三 六四五 六六三 六六七 六七二 七〇〇 七一〇 七五二 七五四 七五六 七七四	七九四	八〇四 八〇六 八二一 八八六 九四〇 一一五六 一一八五
香川県のできごと	<p>聖徳太子が摂政になる。</p> <p>讃岐の国が十一の郡になる。</p> <p>国二郡二里の制度できる。</p> <p>大化の改新</p> <p>坂出の城山に城を築く</p> <p>屋島に城を築く(屋島城)</p> <p>南海道が造られる</p> <p>り、満濃池を築く。</p> <p>この頃、道守朝臣が讃岐の国司になる。</p> <p>奈良に都を遷す。(平城京)</p> <p>東大寺の大仏ができる。</p> <p>讃岐の国分寺ができる。</p> <p>唐の僧鑑真が屋島寺を建てる。</p> <p>空海(弘法大師)が今の善通寺に生まれる。</p>	<p>京都に都を遷す。(平安京)</p> <p>空海が真言宗を学ぶために唐へ行く。</p> <p>空海が高野山で真言宗を開く。</p> <p>空海が満濃池を修理する。</p> <p>源純友が讃岐国を攻める。</p> <p>菅原道真が讃岐の国司となる。</p> <p>崇徳上皇が讃岐に流される。</p> <p>源義経が屋島で平氏を攻め、勝利する。平氏は遠くに逃げて滅びる。</p>	<p>戦いに負けた、平家の落人が讃岐の山の方へ逃げてきた。公淵池の昔話や城地区に残る、平氏の墓など悲しい伝説が各地に残っている。</p> <p>菅原道真をお祀りしている。</p> <p>松尾にある天満宮神社は、菅原道真</p> <p>真言宗には、寺院だけでなく四国八十八ヶ所の霊場めぐりなど、空海(弘法大師)の残したものがたくさんある。</p> <p>普沢町にある、八十八ヶ所写し霊場もそのひとつである。</p> <p>鑑真が屋島寺を建てる時、松尾のあたりで木材を切り組み立て作業をした。「このとき、柚せるといつので」の地名がついたといわれている。</p> <p>出土した白鳳時代の瓦から見ると、大きなお寺が想像でき、この寺を中心に広い道がつくられて、都によく似た条里制がとられていた。</p> <p>下司に奈良の都にあったのと同じ規模のお寺が建てられた。(下司廃寺跡の遺跡)</p> <p>讃岐国山田郡植田郷と呼ばれていた。</p>
西暦			
東植田のできごと			

時代	鎌倉(かまくら)	室町(むろまち)	安土桃山(あづちももやま)
西暦	一一九二 一二〇七 一二二一 一三三四 一三三五	一三三六 一三三七 一三三八 一四六七 一五一九	一五七三 一五七四 一五八六 一五八七 一五八八
香川県のできごと	<p>法然上人が讃岐に流される。</p> <p>源頼朝が征夷大將軍になる。 武士による最初の幕府となる。</p>	<p>高松頼重が讃岐の守護となり、高松城を築く。</p> <p>承久の乱がおこり、幕府方に味方する。</p> <p>北朝方の細川定禪が高松頼重を討つ。</p> <p>讃岐の守護細川頼之が三代將軍足利義満の補佐をする。</p> <p>足利尊氏が京都に幕府を開く。</p>	<p>生駒親正が高松城(玉藻城)を築く。</p> <p>豊臣秀吉が生駒親正を讃岐の大名にする。</p> <p>九州(戸次川)の戦いで、十河存保戦死。</p> <p>十河存保、土佐の長宗我部元親に攻められ十河城が没落する。</p> <p>織田信長が塩飽水軍に朱印状を与えて身分を守った。</p> <p>室町幕府の滅亡と、織田信長、豊臣秀吉の台頭による戦国の乱世。</p> <p>香西氏が朝鮮と貿易して栄える。</p> <p>応仁の乱が起こり、讃岐の武士は東軍に味方する。</p>
西暦	一三六六	一五七三	一五八七
東植田のできごと	<p>この時代に、高野山などで修行したお坊さんなど尊い方が来て、橋を架けたり、田畑を開墾などしたので住民から尊敬されていた。杣尾にある聖郷はその方のお墓といわれている。</p> <p>普沢の熊野神社について 普沢熊野氏の祖先が、紀州熊野の三社の二分霊をお受けしたことに始まる。</p>	<p>戦国時代、この地方の有力な戦国大名は、東植田の植田氏、西植田の神内氏、三谷の三谷氏、十川の十河氏、長尾の寒川氏たちで互いに争っていた。</p> <p>普沢の熊野神社について</p> <p>東植田にある植田城は戸田城とも呼ばれ、植田美濃守を城主としていた。</p> <p>戦国時代に、土佐の長宗我部元親に攻められ落城した</p>	<p>主君の十河正存が亡くなり、没落したので家老の久保佐渡守盛長は、東植田の竹元に移住したと伝えられている。</p> <p>大庄屋久保家のルーツといわれている。</p> <p>九州、戸次川の戦いでは普沢町に残る、有名な「耳塚のむかし話」もある。</p> <p>その後、豊臣秀吉軍が攻めてきた時には、城山に本陣を移し、万全の守りをしたので、軍師黒田官兵衛もあきらめて、別の方向に引き上げたといわれている。</p> <p>戸田城主の植田美濃守が、西植田の藤尾神社から御分霊を受けて、東植田八幡神社を創設した。</p>

時代	大正(たいしょう)		昭和		和(しょうわ)	
	西暦	西暦	西暦	西暦	西暦	西暦
西暦	一九二二大1 一九二七大6 一九二八大7 一九二〇大9 一九二三大12 一九二四大13 一九二六昭1 一九二七昭2 一九二八昭3 一九二九昭4 一九三〇昭5 一九三二昭7 一九三三昭8 一九三五昭10 一九四一昭16 一九四二昭17 一九四五昭20 八月十五日 一九四七昭22 一九四九昭24 一九五三昭28 一九五四昭29 一九五五昭30 一九五七昭32 一九五八昭33 一九五九昭34 一九六〇昭35 一九六二昭37 一九六三昭38 一九六四昭39 一九六五昭40 一九六六昭41 一九六八昭43 一九七三昭48 一九七八昭53 一九八七昭62 一九八八昭63	西暦	西暦	西暦	西暦	西暦
香川県のできごと	<p>大正天皇の即位(大正と改元)</p> <p>菊池寛「父帰る」を発表する。</p> <p>高松市内で米騒動がおこる。</p> <p>香川県の人口が増え、七十万人となる。</p> <p>農民組合運動がはじまる。</p> <p>香川県で小作争議が六十件もおこる。</p> <p>香川県水平社が結成される。</p> <p>高松・琴平間に電車が開通する。</p> <p>昭和天皇の即位(昭和と改元)</p> <p>県下全体が戦争の影響を受ける。</p> <p>土讃線が高知まで、高德線が徳島まで開通して便利になる。</p> <p>米国爆撃機による、高松空襲がある。</p> <p>市街地の八割を焼失、大被害を受ける。</p> <p>太平洋戦争がおこる(第二次世界大戦)</p>	<p>一九二二大3</p> <p>一九二五大14</p> <p>一九二七昭2</p> <p>一九二九昭4</p> <p>一九三三昭8</p> <p>一九三九昭16</p> <p>一九四一昭16</p> <p>一九四二昭17</p> <p>一九四五昭20</p> <p>一九四七昭22</p> <p>一九四九昭24</p> <p>一九五〇昭25</p> <p>一九五三昭28</p> <p>一九五五昭30</p> <p>一九五七昭32</p> <p>一九五八昭33</p> <p>一九五九昭34</p> <p>一九六〇昭35</p> <p>一九六二昭37</p> <p>一九六三昭38</p> <p>一九六四昭39</p> <p>一九六五昭40</p> <p>一九六六昭41</p> <p>一九六八昭43</p> <p>一九七三昭48</p> <p>一九七八昭53</p> <p>一九八七昭62</p> <p>一九八八昭63</p>	<p>東植田八幡神社の社殿、拝殿、大屋根など大修理が完了する。</p> <p>火災による、小学校校舎の焼失。</p> <p>山田町と高松市が合併する。</p> <p>四地区の中学校を、山田中学に統合。</p> <p>旧東植田中学校の校舎を小学校に移す</p> <p>西植田村、東植田村、十河村、川島町が合併して、山田町が誕生した。</p> <p>東植田保育所が新築完成する。</p> <p>東植田小学校の新校舎が落成する。</p> <p>忠魂碑の建立。多くの戦没者の慰霊碑を八幡神社の境内に建立した。</p> <p>東植田小学校の校庭に、さくら遊園地が完成する。</p> <p>普沢分校の校舎が改築される。</p> <p>国民学校が小学校に改称され、新たに新制中学校が誕生した。東植田中学校終戦(昭和二十年八月十五日)</p> <p>現サンメッセの場所に軍用空港が建設され、住民多くが勤労奉仕に動員された。開戦。東植田国民学校と改称される。</p> <p>公測池の大改修。現在の広さになる。</p> <p>東植田に電気が点灯された。</p> <p>東植田、西植田、仏生山の間にバスが通るようになった。</p> <p>西植田、東植田と高松築港間にバスが通るようになった。</p> <p>大正時代は、大正デモクラシーと呼ばれるように、日本の近代化の始まりであった。東植田でもその影響がいろいろなところに出ている。</p> <p>高等小学校が西植田校から分離して東植田尋常高等小学校となった。</p>			
東植田のできごと						

時代	平成(へいせい)		
西暦	<p>一九八八平1</p> <p>一九八八平1</p> <p>一九九二平4</p> <p>一九九三平5</p> <p>一九九六平8</p> <p>二〇〇〇平12</p> <p>二〇〇四平16</p> <p>二〇〇六平18</p> <p>二〇一〇平22</p>		
香川県のできごと	<p>瀬戸内芸術祭が開催され、瀬戸内の島々が賑わいはじめる。</p> <p>市町の合併が進み、県内は八市、九町になる。</p> <p>サンポート高松が完成し海の玄関が整備され、高速道路が県内全通する。</p> <p>香川県庁の新庁舎が完成する。</p> <p>宇高連絡船が終り終航式が行われる。</p> <p>第四十八回国民体育大会(東四国国体)が開かれる。</p> <p>四国横断自動車道、善通寺―高松間が開通する。</p> <p>高松市香南町に新高松空港が開港する。新しい空の玄関となる。</p> <p>平成天皇の即位(平成と改元)</p>		
西暦	<p>一九七五昭50</p> <p>一九八七昭62</p> <p>一九九〇平2</p> <p>一九九四平6</p> <p>二〇〇一平13</p> <p>二〇〇四平16</p> <p>二〇〇八平20</p> <p>二〇一〇平22</p> <p>二〇一二平24</p>		
東植田のできごと	<p>鉄筋三階建て小学校校舎の完成。</p> <p>菅沢分校校舎、室内運動場完成。</p> <p>プールの建設起工式が行われる。</p> <p>再来といわれた。(</p> <p>異常湧水による水不足(高松砂漠の)</p> <p>さくら遊園地にピオトープを造成。</p> <p>台風十六号により大雨が降り、朝倉川や高様川も氾濫し被害が出る。</p> <p>維持されている)</p> <p>菅沢分校が生徒数減少により休校する。(校舎や体育館、運動場はそのまま)</p> <p>さくら遊園地の遊具が撤去される。</p> <p>校庭芝生化により、運動場に芝生を植える。</p>	<p>東植田コミュニティ協議会</p> <p>文化部 久保 征四郎</p> <p>平成二十八年十一月二十日</p>	<p>作成者</p>